

知識は最強の防災グッズ

災害で生き残るには、情報を鵜呑みにせず、自分の頭で考え、判断し、行動すること——

福智町にとって河川氾濫はリアルな危機——

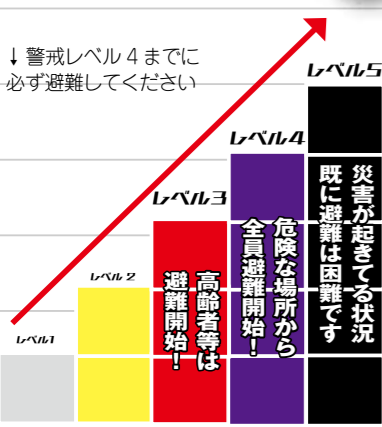
地球温暖化の影響で、平成30年7月豪雨も記憶に新しいように、北九州では集中豪雨による大規模水害が頻発していますが、福智町も例外ではありません。福智町では、中元寺川と彦山川の合流点で一気に水量が増えるため、広範な浸水想定区域（河川が氾濫した場合の想定被害区域）が存在します。もし平成30年7月豪雨で夜半に雨脚が弱まらなかつたら、上流の陣屋ダムが放流されていれば、中元寺川と彦山川が氾濫しなかったのは多くの偶然が重なった幸運に過ぎないのです。今回は、福智町の「風水害」について、町で想定される被害とその対策を特集します。

水害で家が浸水するかはハザードマップで知る

河川氾濫などの風水害発生時、どの区域にどのくらいの深さで浸水するかは、色で浸水の深さを表示してある「ハザードマップ」で二目瞭然です。福智町には中元寺川と彦山川沿いに広範な浸水想定区域があることが分かります。過去に実際に水害があった地域では、ハザードマップの浸水想定区域の予測はほぼ的中していました。ハザードマップで自宅箇所に浸水想定区域の色が付いている人は、風水害が発生する前に、原則自宅の外への避難が必要です。

風水害は予測できる 予測できるなら準備しよう

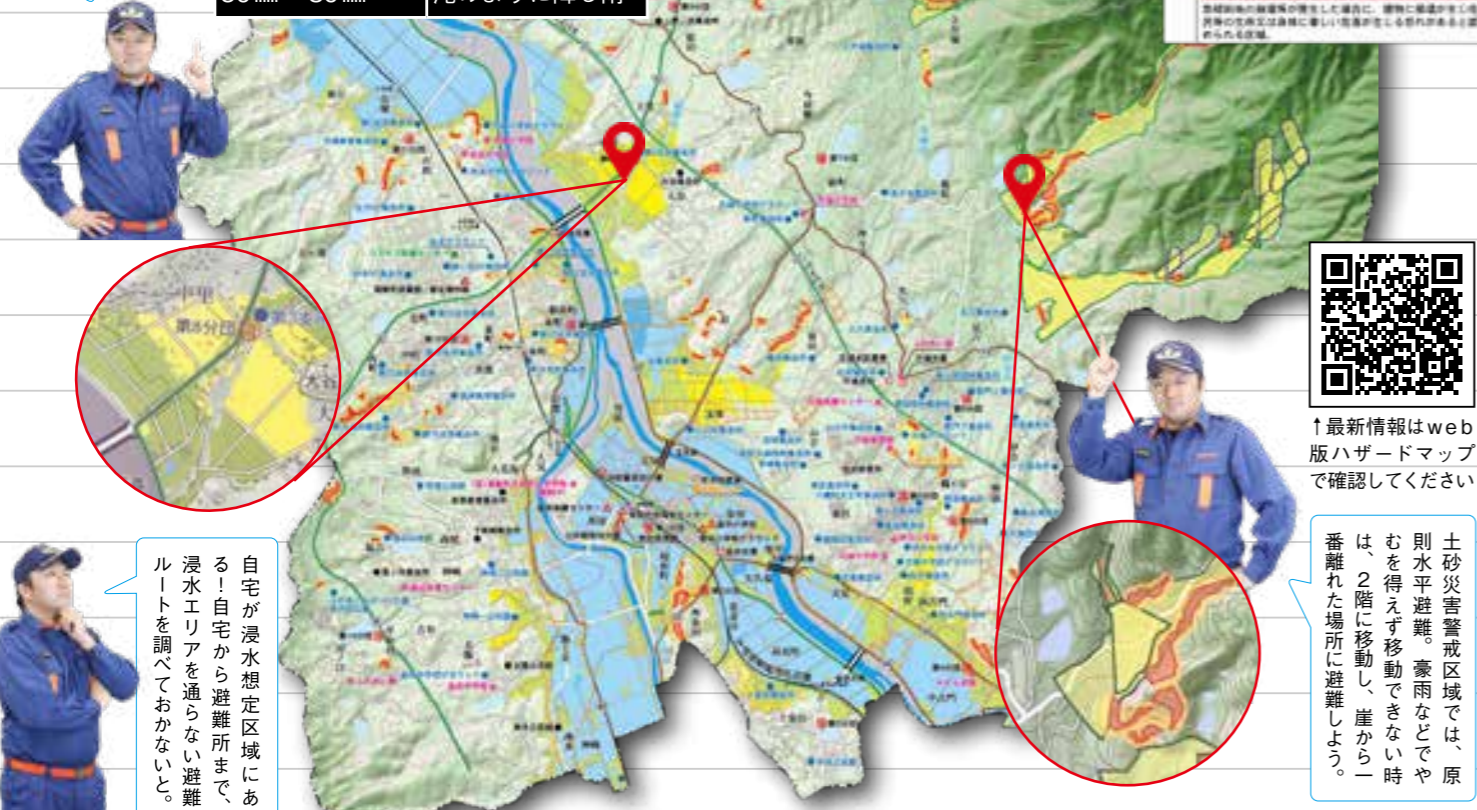
ハザードマップで自宅が浸水想定区域や土砂災害警戒区域にある人は、あらかじめ避難先への避難ルートを調べ、実際に歩いてみて危険な箇所がないか確認しておきましょう。風水害は、地震と異なりある程度事前に予測できるため必ず早めの行動を心掛けましょう（ゲリラ豪雨などの例外あり）。また、最新の天気予報はかなり高精度です。台風の進路がほぼ確定するのが72時間前。この間に、自宅周辺の片付け、土のうなどの準備、窓ガラスへの養生テープ貼り、停電や断水に備えて備品の見直し、物資の買い出しなどをしておきましょう。気象庁や町が警戒情報を5段階で発令するので、情報に注意しましょう。



土砂災害のほとんどが長雨や集中豪雨でおこります。豪雨でなくても降りはじめから100mm以上になったら要注意！

1時間雨量	雨の強さ
10mm～20mm未満	音がうるさい程度
20mm～30mm未満	土砂降り
30mm～50mm未満	バケツをひっくり返したような雨
50mm～80mm	滝のように降る雨

凡 例	
0.5m 未満の区域	土砂災害警戒区域-急傾斜地の崩壊
0.5～1.0m 未満の区域	土砂災害特別警戒区域-急傾斜地の崩壊
1.0～5.0m 未満の区域	土砂災害警戒区域-土石流
5.0～10.0m 未満の区域	土砂災害特別警戒区域-土石流
路側冠水危険箇所	土砂災害警戒区域-地すべり
浸水実績区域	土砂災害警戒区域(イエローゾーン)とは
	急傾斜地の崩壊が発生した後に、住居等の生命又は財産に被害が生じる恐れがある区域。
	土砂災害特別警戒区域(レッドゾーン)とは
	急傾斜地の崩壊が発生した後に、住居等の生命又は財産に被害が生じる恐れがある区域。



土砂災害警戒区域では、原則水平避難。豪雨などでやむを得ず移動できない時は、2階に移動し、崖から一番離れた場所に避難しよう。



↑ゲリラ豪雨は短時間で狭い地域に集中的に降るので大きな被害を起こすことがあります。ゲリラ豪雨は予報が出にくいですが、晴れでも急に黒々とした入道雲が近づいてきたら要注意です。

↓避難時は自分と家族の無事を確認した後、できれば障がい者や高齢者などハンデのある人たちや子どもがいるお母さんにも気を回したいもの。風水害時は傘ではなく両手が空くカッパです。



↑小石が落ちてくる、水が湧き出てくるのはガケ崩れのサイン。山なりがする、腐った土の臭いがする、木や石がぶつかりあう音がするのは土石流のサインです。いち早く避難しましょう。

一緒に避難する人が、高齢者等の避難に時間がかかる場合は警戒レベル3で、そうでない人は警戒レベル4までに必ず避難。コロナ禍では、避難所のほかに、安全な場所に住んでいて身を寄せられる親戚や友人宅、ホテルを避難先にすることも検討しましょう。



① 弁城地区で道路崩落の土砂崩れ ② 草場地区(市場)は広い範囲で冠水し、2軒が孤立 ③ 宝見保育園(金田)で浸水が発生。土のうで流入防止 (全て平成30年7月豪雨時の福智町の災害現場の様子)